

.....

## 狸が花嫁に化けた話



.....

むかしむかし、和泉の村に三太という若者が住んでおったそうなの。

ある晩のこと、古川に住む友達の家から帰る途中、雨が降り始めた。

「早く帰らんと雨に濡れてしまうわい。」

そう思って急いで歩いておった。すると、和泉橋のふもとにある竹やぶのところに差し掛かったとき、上半身を花嫁衣装で飾ったきれいな娘が、遠くにたたずんでいるのが見えたそうじゃ。

「なんと不思議なことよのう。こんな夜中に何をしとるんじゃろう。」

と思うたが、先を急いでいたのでそのまま家に帰ったんじゃと。

それから数日後の晩のことじゃ。三太が畑での仕事を終えて家に帰ろうと、荒神社の近くに差し掛かったとき、10個くらいのちょうちんが行列を作って荒神社から出ていくのが見えた。

「きょうは祭りでもないし、何事かのう。」

と思って見ておると、行列のちょうど真ん中ぐらいに、美しい花嫁がおるではないか。

「ははーん。さては狸が花嫁行列に化けて遊んでおるんじゃな。」

三太は、化かされてなるものかと、急いで家に帰ったんと。

.....

「和泉郷土誌」(昭和62年 和泉郷土誌編集委員会)に記述してある話を、読み聞かせのために脚色しました。